



～ 「わかる」「できる」を実感する授業をめざして！ ～



27日(木)は、村の教育委員会や県の教育事務所から7名が来校し、子どもたちや職員の様子を参観する学校支援訪問がありました。学校支援訪問とは、各学校の目標の達成や課題の解決に向け、教育委員会と学校がいっしょに対策を考える一日のことです。

以前の号で話題にしましたが、本校では「授業改善」を超重点目標に掲げ、「みんなが『わかる!』『できる!』を実感する授業づくり」に取り組んでいます。今回の支援訪問は、その取組の様子を参観してもらい、授業がよりよくなるよう訪問者から助言をいただくことをねらいとしています。

「チャレンジ授業」と題した研究授業も今回で2回目。1回目で明らかになった課題の改善状況を確認する45分間の真剣勝負です。

この日は、午前にそれぞれの授業を参観し、午後に授業の成果や課題について話し合うフィードバックを設定しました。訪問者と1対1で向き合うフィードバックでは「手立てがうまくいった」と満面の笑みを浮かべる先生もいれば、「時間に余裕がなく、駆け足になってしまった」と反省しきりの先生も…

訪問者からは、「事前の教材研究がきめ細かい」「子どもたちへのかかわりが素晴らしい」といった称賛をいただく一方、「教師の指示を減らし、子どもたちの発表を増やす手立てを工夫したい」「教える部分と考えさせる部分のバランスを考えるとよい」といった指摘もいただきました。



成果を得た先生も、新たな課題に直面した先生も、そのいずれもが収穫の多い一日となったはず。支援訪問での収穫をぜひ日々の授業改善に活かしてほしいと思います。

7月2日(火)は、1学期最後の参観日を計画しています。すべての学年で命の尊さを考える習慣にちなんだ授業を行います。

保護者や地域の皆様にも、ぜひ授業に関するご感想をお寄せいただき、日々の授業に活かしていきたいと思ひます。